



▲かつての田川(宮の橋付近)

◀現在も、旧家や戦火の跡が残る



この付近は、宇都宮藩士の下屋敷や足軽組屋敷がありました。川向侍屋敷と呼ばれていました。城下町から見て田川の反対側にあったことから、川向という名が付いたようです。正式に川向町と呼ばれるようになったのは、明治時代になってからのことです。

最近では、JR宇都宮駅周辺は美しく整備され、気持ち良く、安心して歩ける、住環境の整ったまちになったと思います。

今でも、第2次世界大戦の戦火の跡が残る塀や、焼け残った旧家も点在しています。

この辺りの子どもたちは、町内の寺の庭や、JR宇都宮駅の周辺などが遊び場でした。また、築瀬小から南の田川沿いは「築瀬田んぼ」と呼ばれていて、野草を摘んだ

かつては染物屋や漬物屋、衣料品店など、多くの商店が軒を連ねており、現在でも「川向銀座通り」という名が残っているように、住民も多く、とてもにぎわっていました。

そんな田川の周りには、かつては染物屋や漬物屋、衣料品店など、多くの商店が軒を連ねており、現在でも「川向銀座通り」という名が残っているように、住民も多く、とてもにぎわっていました。



かわ むこう 川向  
現在の南大通り4丁目辺り

古いまちの呼び名と  
こぼれ話を紹介します



南大通り4丁目

鈴木 順子さん

# はつら宮っこ

今、輝いている市民

念願の日本一  
江差追分全国大会優勝

昨年、北海道江差町で開催された、第51回江差追分全国大会一般の部で、見事、優勝を勝ち取った柿沼初雄さん。

大会に出場し始めて18年目の快挙に「この大会で優勝することを目標に努力してきたので、何とも言えない気持ちで、うれしくて涙が止まりませんでした」と振り返ります。

幼いころから歌が好きで、地域の婦人会で民謡を習っていた母親に付いて行くうちに、自然と民謡に興味を持ったそうです。「民謡は、その土地ごとに味わいがあり、人間の心の中を表現していることに魅力を感じます」と話します。

江差追分は、「民謡の王様」と呼ばれるほど難しい歌で、「自分にとっても特別な歌です」と話す柿沼さん。栃木県には海がないので、県外の海へ出掛け、波の音



下ヶ橋町 柿沼 初雄さん

を録音して江差の海をイメージしながら練習したり、北海道江差町で行われているセミナーに参加したりと、さまざまな努力を重ねました。

「辛いときは歌に助けられています。歌うと心がすっきりします」と笑顔で話す柿沼さん。4月には、うつのみや市民賞も受賞し、「宇都宮の子どもたちにも民謡を教えられる場を作りたいです。また、もっと民謡の歌い手が増えて欲しいので、指導にも力を入れていきたいです」と、地元への思いを力強く話す柿沼さんの今後の活躍からますます目が離せません。